

1-2-7 県指定・富田家

〈県指定〉昭和50年7月17日

〈所有者〉高山市

〈所在地〉上岡本町1丁目590番地 飛騨民俗村構内
(旧所在地 吉城郡神岡町杉山)

〈時代〉江戸時代末期

〈員数〉1棟

主屋(1棟)桁行14.4m、梁間8.2m、入母屋造、茅葺

富田家は越中東街道沿いにあった。歴代茂住鉦山の仕送人として荷物や牛馬の中継を営んでいた。

建物は平入りで、内部は大きく3つに区分され、押入れはない。狭い「ドジ」へ入ると「アガリタテ」があって、左に広い「オエ」、その奥には板間の「デイ」と仏壇のある6畳間の「デイ」がある。「ドジ」の右手には「マヤ」、「ニワ」があって、2階へ上がる階段は「ニワ」にある。「オエ」は板間で、棟下下手寄りに囲炉裏がある。

奥の「デイ」と「ニワ」は根太天井で、他は簀子^{すのこ}天井である。前の「デイ」と「オエ」の前2間に幅2尺ほどの縁を設けて、店に立寄る旅人が腰かけて休めるようになっている。また、入口横には帳場があった。

屋根は丸味のある入母屋造で、破風口は小さく妻側の壁は堅羽目となっている。当家と同じ河川流域に吉真家、道上家があったが、異なる谷筋にあって外観を異にする。吉真はハホザオ、ミズハリがあり、道上は兜造^{かぶとづくり}(妻の屋根を切下げて開口部をとったもの)で、カヤ尻の形が異なる。

昭和45年11月から翌年6月にかけて民俗村へ移築された。

参考文献

『高山の文化財』37～38頁 高山市教育委員会発行 平成6年